



福岡和白病院 | 広報誌

いのち、痛みに全力

地域医療により大きく貢献!!

VOL. **60**
2024/Dec

CONTENTS

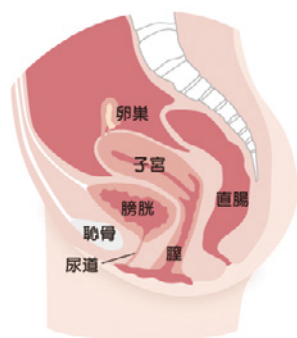
- 腎・泌尿器外科の新しい治療
- 電卓からナースコールへ
- 市民公開講座開催
- 健康フェスタ開催
- 福岡和白病院 納涼祭
- 下駄ばきICU発行
- 医療連携医紹介



腎・泌尿器外科の新しい治療

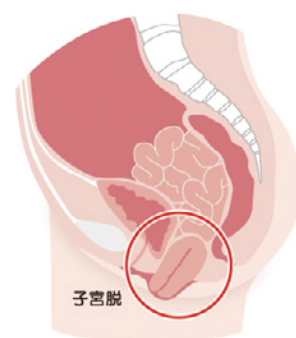
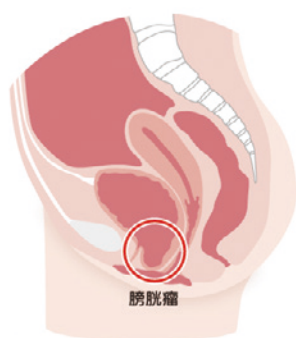
子宮脱・骨盤臓器脱とは？

骨盤底には膀胱、子宮、直腸があり、骨盤底筋群という筋肉とそれをおおう筋膜が、ハンモックのように膀胱、子宮、直腸、膣を下方と側面から支えています。これらの筋肉や筋膜と、膣の周りの支持組織が弱くなって緩んだ状態になると、膣壁が裏返るように外に突出します。そこに膀胱や子宮、直腸が落ち込んだ状態が骨盤臓器脱です。脱出する臓器により子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤、小腸瘤、膣脱と呼ばれ、これらが単独または同時に出現します。



主な症状

膣の中に、ものが降りてきたような異物感(子宮の下垂感)、外陰の異物感が主な自覚症状です。脱出した子宮頸部や膣が乾燥して刺激に弱くなり、出血やおりものの増加をみることもあります。膀胱瘤になると尿がすっきり出ない感じや、頻尿、尿失禁などの排尿障害を伴うことがあります。

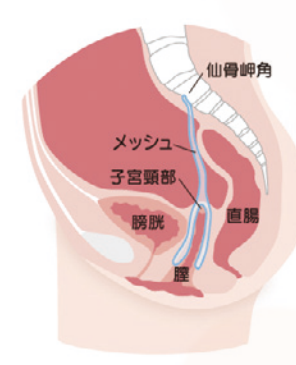
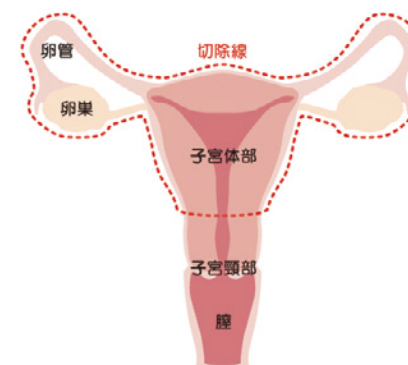


子宮脱・骨盤臓器脱の治療は？

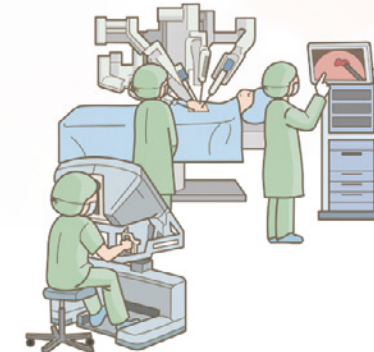
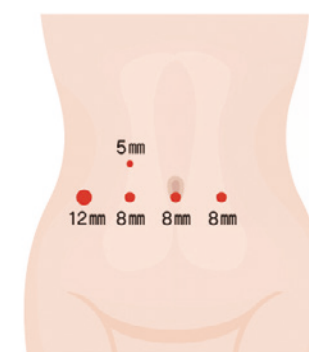
下垂の程度が軽度であれば、膣や肛門周囲にある骨盤底筋群を鍛える体操などで脱出を抑えることもあります。薬で治ることはありません。治療は、まずペッサリーを挿入する方法で対処しますが、うまくいかない場合は手術になります。

手術療法

子宮体動と付属器を切除した後に、子宮頸部に人工素材(ポリプロピレン等)を網状にしたメッシュシートを縫い付けて固定し、もう一方の端を仙骨内側の岬角という場所に縫い付けて固定する方法です。かつてはお腹を大きく切る開腹手術で実施していましたが、腹腔鏡手術の発展により、腹腔鏡で実施するようになりました。当院では、福岡県内では実施施設の少ないロボット手術(RASC)で行っております。



へその高さで5~6ヶ所に5~12mmに穴を開け、そこにトロッカーという筒状の装置を腹腔内に留置します。これらのトロッカーから内視鏡カメラ、ロボット用の鉗子などを挿入して、腹腔内で手術操作をします。手術は術者が操作するロボット(da Vinci Xi)が行います。



腹腔鏡手術で行うため、傷が小さくて目立たず、術後の痛みも比較的軽度です。術後の経過が順調であれば、手術後4~5日目に退院します。まずは当院婦人科を受診し、診療を受けていただき、手術の必要があれば腎・泌尿器外科に紹介する流れとなります。



電卓から ナースコールへ



ケアワーカー
安岡 美恵

私は、23年前に外来クラークのパートとして採用されましたが、入職時期が新年度準備時期と重なった為、一時的に看護部室クラークの補佐として勤務をする事となりました。

医療現場未経験の専業主婦歴15年の私が入職したのです。全身麻酔のことを「全麻」と略号で申し送られ「え？病院で全身マッサージするの？」と思ったほど何も知りませんでした。そんな私に対して、先輩職員の方から「わからないことは何度でも聞いて」と優しい言葉を掛けていただき、とても安心したことを覚えています。私はその時の気持ちを忘れず、仕事の引継ぎの時は、挨拶代わりのようにその言葉を掛けています。

その頃の和白病院は、診療科が増えると共に病床数も増え、看護部室クラークは厚生局対応業務で正確な看護師配置数計算に追われ、電卓を叩く日々が続いていました。そんな中で、法律を厳守する事や医療現場で気苦労が多い看護師長達が入り出る部長室を、少しでも気を休める場所にしたいという上司の思いを知り、部長室クラークとして雰囲気作りに心がけていました。お陰で看護部長室は笑いの絶えない職場となりました。

クラーク定年を機に、職種変更しケアワーカー（看護補助者）としての勤務を願い出たのも、厚生局対応書類に携わりケアワーカーの人員不足を強く感じ、私が+1の人員になればと思ったからです。今は回復期病棟で、より患者さまの身近な存在として、ナースコールが鳴ると患者さまのもとに駆け付ける日々です。

これからは、ケアワーカーとして、皆と協力し患者さまの入院生活を支えて行きたいと思っています。

市民公開講座開催



第5回 下肢静脈瘤とは～足の病気について知ろう～

9月21日(土)、第5回市民公開講座を開催しました。「下肢静脈瘤とは～足の病気について知ろう～」というテーマで、血管外科・血管内治療部長の手島英一先生が「下肢静脈瘤の治療とは？」の演題で、循環器内科医長の伊元裕樹先生が「下肢静脈瘤の正しい知識」の演題で講義を行いました。近年下肢静脈瘤に関しては多くの方が興味を持っている疾患でもあり35名の地域の方々に参加していただきました。参加者からも「下肢静脈瘤について深く知ることができた」「命に関わると聞いたことがあったので少し心配していたが、安心した」等の感想を聞くことができました。今回の市民公開講座は有意義な時間になったと実感しました。また、講義のあとは健康体操も行いました。健康体操は毎回好評でもっと時間を取って欲しいとの声もいただいておりますので、今回より時間枠を30分拡大し1時間の体操を行いました。参加者は澁滞とした表情で体を動かしていました。

第6回 考えていますか?もしもの時のこと

10月26日(土)、第6回市民公開講座を開催しました。今回は「考えていますか?もしもの時のこと」という演題にて3演題に分けて講義を行いました。先ず初めに、副院長 兼 内科・循環器内科統括部長の有田武史先生が「延命と救命の境はどこにあるのか」という演題にて、先生が実際に医療現場で感じていることを基に参加者の方々に延命・救急について講義をしました。次にクリティカルケア看護認定看護師の江島由紀さんが「代理意思決定による患者・家族のICU生活」という演題にて、ICU看護師としての実情を含めて講義していただきました。

最後は医療相談員(MSW)の萩尾敦子さんが「実際に遭った相談事例」という演題にて、相談事例を含めて参加者にもしものことが起きる前にすべきことを伝えていただきました。

今回は少し難しい内容ではありましたが、16名の方々に参加していただきました。参加者からも「事前にどうしてほしいか決めておこう」「家族に自分の意思を伝えることは大切だし、相手の意見もしっかりと聞くことが大事だね」といった声が見受けられました。

今後も市民公開講座は継続的に開催していきます。多くの方の御参加お待ちしております。





健康フェスタ開催

令和6年11月2日(土)に5年ぶりとなる「福岡和白病院健康フェスタ2024」を開催しました。ステージイベントでは福岡工業大学附属城東高校吹奏楽部による全国レベルの演奏やキッズダンス、よさこい等で会場を盛り上げていただきました。フードコーナーでは焼きそば・焼肉・フランクフルトなどの提供も行い、特に焼きそばの評判が良く、来場者の方々も大変満足されていました。キッズコーナーでは白衣試着体験や金魚すくい、駄菓子つかみなどを行い、参加した子供たちの笑顔や歓声が絶えず、予想以上の盛況ぶりです。駄菓子つかみの駄菓子が足りず、急遽買い出しに行くハプニングも発生しました。

今回、あいにくの悪天候にも関わらず、約1500名の方が「福岡和白病院健康フェスタ」に足を運んでいただきました。誠にありがとうございました。また、ステージイベントで会場を盛り上げていただいた出演者の皆さま本当にありがとうございました。福岡和白病院は今後も地域の皆さまの健康を支えられる様、日々精進していきたいと存じます。

今後ともよろしくお願い致します。



福岡和白病院 納涼祭

清々しい秋晴れが広がる時期となり、当院でも恒例のイベントを開催!!

浴衣を着たスタッフによる体操や出し物、座って楽しめるゲームを行いました。

看護部・リハビリテーション科・栄養科が協力し連携することで、多くの患者さまに安心してイベントに参加していただきました。イベント終了後には患者さまの個別に応じた軽食の準備を行い、みんな笑顔で食べられていました。

納涼祭終了後に病棟へ戻ってきた患者さまにお話を聞くと「楽しかった」「軽食がおいしかった」「規模が大きくてすごかった」など沢山の感想をいただきました。入院や治療による不安の軽減や夏から秋に移り変わる季節感を感じていただき、今後も患者さまのためのイベントを行っていききたいと思います。



プログラム

1	はじまりの挨拶
2	準備体操
3	リハ科による出し物
4	座って楽しめるゲーム
5	挨拶 ※軽食の提供

下駄ばきICU partⅢ を発刊しました

先日、下駄ばきICU partⅢ～カマチグループ50年の軌跡・病院再生と東京進出～を発行しました。このドキュメンタリー小説は19床の一医院の再生から出発し、50年間で首都圏を含む28病院5,511床、6医療専門学校(うち1大学)、スタッフ総勢約15,000人を擁するカマチグループを成長させた蒲池真澄という破天荒で痛快な医師の物語となっております。その成功の秘訣を解くカマチイズムとは何かに迫った小説でもあります。また、partⅠ・partⅡも取り揃えております。各施設総務課までお問い合わせいただき、是非ご一読ください。





ホームページ
<https://www.f-wajirohp.jp/>



Facebook
<https://www.facebook.com/wajiro>



YouTube 福岡和白病院チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCq57CXLP3wQ3g_-xw/vzgQ



医療連携医のご紹介

医療連携室だより

かい乳腺クリニック箱崎



院長

皆さま、はじめまして。
長年勤めて参りました九州大学病院の近くでご縁をいただき、この箱崎の場所にクリニックを開くこととなりました。

私は、九州大学病院第一外科(臨床・腫瘍外科)をはじめ、がん研有明病院(東京)、北九州市立医療センター、福岡赤十字病院等で、乳腺外科専門医として多くの乳腺疾患の診断・治療の経験を積んでまいりました。これまで執刀してきた手術は1,000例を超え、乳

腺外科指導医として後輩の教育も行ってきました。手術のみならず、化学療法、放射線といった、乳がん治療には欠かすことのできない治療や、苦痛を軽減する緩和ケアにも深く携わってきました。

また年間2万例ほどのマンモグラフィ読影や超音波検査を行い、検診および診断に関わっております。野口病院(別府)では、年間100例以上の甲状腺手術を行い、九州大学病院でも内分泌外科グループサブチーフとして、甲状腺疾患の治療も行ってきました。臨床と並行して、九州大学医学研究院腫瘍制御学講座、がん研究会、米国City of Hope Beckman Research Instituteで、乳がん研究の最先端に携わってきました。



受付・待合室



中待合室



マンモグラフィ

かい乳腺クリニック箱崎

院長：甲斐 昌也

診療内容：乳腺疾患・乳腺検診・甲状腺腫瘍 等

住所：福岡市東区箱崎3-5-42エフタス3F

電話：092-409-6200

駐車場：完備

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:30	●	●	●	●	●	●	/
14:30~18:00	●	●	●	/	●	/	/

休診日：木曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日

交通アクセス

福岡大前駅(JR)から徒歩15分

和白駅(JR)から徒歩10分

和白丘バス停(西鉄)から徒歩3分

和白駅(西鉄)から徒歩10分

福岡空港から車で約30分



池友会

福岡和白病院

〒811-0213 福岡市東区和白丘2-2-75 E-mail info@f-wajirohp.jp

TEL.092-608-0001(代)

福岡和白

検索



災害拠点病院 開放型病院 地域医療支援病院

救急告示病院 基幹型臨床研修指定病院

日本医療機能評価機構認定病院 がんゲノム医療連携病院

地域がん診療連携拠点病院 福岡県 DMAT 指定医療機関

